

WIN CONCORD
WIN コンコード

NEWSLETTER

2018
vol.28



ごあいさつ

理事長 潰瀧順一

皆さんこんにちは。理事長の潰瀧順一(つえたきじゅんいち)です。私は、昨年1月に急逝した前理事長の後藤芳則氏の後任として2017年3月に就任しました。よろしくお願いいたします。

後藤氏は、会発足から留学生が住むアパート探し、寄付して頂いた生活用品をアパートに配達する自称「引っ越しマン」として、また、自然を愛し、和歌山の美しさを留学生に体験してもらうために、現地を案内することも度々ありました。更に10年以上WINコンコード代表・理事長として就職活動支援や企業見学、NPO法人立上げ等々に尽力されました。ここに改めて感謝の念と共にご冥福をお祈りします。

初めに私と本会の関わりですが、設立当初から入会はしていましたが、10年程は会費納入と県立博物館等の入館料減免への働きかけ程度でした。転機は留学生に農業体験をという話があり、もう15年も続いています。2003年12月から当家農園で多い年には40人を超える留学生が八朔狩り・大根引きの農業体験を楽しんでいます。

次に理事長就任からの1年を振り返り、2つの行事で感じたことを紹介します。1つは、「留学生故郷を語る集い」です。この集いでは、会員の皆さんの心こもった手作り料理が振舞われます。美味しい料理に話が弾み、笑顔に溢れた交流会でした。

2つ目は、「世界遺産を学ぶバス研修旅行」です。昨年の総会で、留学生に和歌山で何をしたいかと問うと、圧倒的多数であったのが世界遺産訪問でしたので、早速実施しました。

熊野古道大門坂、熊野那智大社、那智の滝を実際に体感し、和歌山の自然と歴史を学んで貰いました。他に、留学生の入寮、急病、事故、論文作成等々に対して、会員の皆さんが一つ一つ迅速かつ献身的に支援されている活動に、感謝の意味を込め敢えて追記します。

今後ですが、直近の課題は留学生との連絡体制の再構築です。メールでプログラムを案内しても殆ど見過ごされます。よく利用されるライン等の新しい連絡手段の確立が急務です。また、個人情報保護により、新入留学生の名前、連絡先も入手困難になっています。和歌山大学と協議を重ね、ようやく入学ガイダンスに参加し、本会の紹介ができるようになりました。次にプログラムの展開ですが、①基本プログラムの生活支援、花見、文芸鑑賞等は、継続・充実します。②時代・ニーズプログラムである、和歌山の自然歴史体験研修や就職活動に向けた勉強会など様々な学びの支援を進めます。③絆プロジェクトとして、ホストファミリーの増員、帰国留学生との交流促進に努めます。最後に、会が設立して27年が経ち、次の四半世紀に向かう折、理事長に就任したのも何かの縁ですので、留学生にとって和歌山が第二の故郷となる様に努めます。

皆さんのご協力・ご支援をお願いします。



前理事長・後藤芳則氏を偲んで

理事 松島 智

まず、最初に前理事長の後藤芳則氏のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

私が後藤さんに初めてお会いしたのは、WIN コンコードの設立の日でした。今から 27 年前ですから、彼もまだ若くて青年のようでした。爽やかでハンサムな風貌には、とても好感を持った事を思い出します。更に、留学生達と色々な活動を共にしていく中で、親しみが増していきます。内面的にも多方面にわたり才能の持ち主である事に気付かされ、益々ひかれていったものです。

又、WIN コンコードのメンバーが長らく活動に参加協力していなくて、久々に顔を見せてくれた時は心から歓迎し、誰に対しても変わらない対応をなさる姿には教えられることが多くありました。ある時、お子さん達の話に触れた際に一人ひとりの性格や能力を信じ、陰で見守りつつ親というよりまるで友達のようなサポート振りを耳にし、さすが「後藤さんだ!!」と感銘を受けたものです。今もきっと沢山の人の傍にいて、目立たずに細やかなアドバイスを下さっている事でしょう。

偉大なリーダー、後藤芳則氏に心より御礼と感謝の気持ちをお伝えします。有難うございました。

後藤さんの思い出

卒業生 時光(中国)

「後藤さあーん！」と心の中で呼んでみれば、今もすぐそこに立っていて、穏やかな表情でこちらを見ているような気がします。穏やかな後藤さんは、その場にいるだけで安心感を覚えさせてくれる不思議なオーラをもっていました。私は全国の自治体職員向けに研修をしたことがあり、数多くの方とお会いしたことがありますが、その中でも後藤さんは珍しいタイプなのです。なぜ珍しいと思うか上手く言えませんが、私たちにとって後藤さんはかけがえのない大切な人でした。そのことだけは確かに言えます。

お酒が大好きですが、ニンニクが嫌いだとか、いつも穏やかな顔で、整然としたお話をされると思ったら、時々面白いことを言って周りを笑わせます。そんな後藤さんですが、驚くほど植物につ



いて詳しいです。新緑が綺麗な季節に、よく留学生を乗せて和歌山のいろんなところに連れて行ってきていました。後藤さんは運転しながら道で出会う数々の植物を進んで説明してくれます。その時の表情は普段とあまり変わりませんが、その説明はとても詳しく、いかに植物が好きかということがよく伝わってきます。素人の自分にとっては情報量が多すぎて、ほとんど覚えられないけれども、なぜか淡いピンク色の山桜、薄い紫色の山藤を見るといつも後藤さんを思います。

留学生の目には、後藤さんはよく面倒を見てくださる数多くいる WIN のメンバーの一人だというふうに映っているでしょう。それもそうですが、後藤さんは WIN コンコードの理事長を務められていたことを覚えていますか。和歌山で頑張っている留学生に心のぬくもりを届ける WIN の活動は、楽しいイベントとして認識されることが多いかもしれません。私自身も数年間 NPO 団体を運営した経験があり、事務局の立場で WIN の活動を見れば、その大変さもよくわかります。一見何事もスムーズに見える事務局の運営ですが、実は外から見えない苦労もたくさんあります。慣れない事務仕事もあるでしょうし、活動があるたび、いろんな調整ごとやちょっとしたトラブルも生じたりするでしょう。それでも粘り強く活動を続けてこられた WIN の事務局にとって、後藤さんはきっと心強い理事長であり、見えないところで WIN の活動を大きく支えてくれた大切な存在にちがいないでしょう。

ふと携帯の連絡帳を見たら今も後藤さんの携帯番号がそのまま残っています。電話したら出てくるかな？なんて思ったりします。後藤さんは、今きっと世界中の珍しい植物、おいしいお酒を探す旅に出ています。世界各国にいる留学生のところにも立ち寄って、日々楽しく過ごされているでしょう。「後藤さん、今日はどちらですか。」

カザフスタン

ディアナ（カザフスタン）

初めまして、カザフスタンから参りましたディアナと申します。私は日本語・日本文化研修留学生として和歌山大学で勉強しています。和歌山に来てからもう半年くらい経ちましたが、WIN コードの方々ともまわりの友達のおかげで半年間はあっという間でした。

カザフスタンは、1991年にソビエト連邦共和国からカザフスタン共和国として独立しました。国土面積は中央アジアで一番広く、日本の約7倍で、世界第9位です。

私の地元はカザフスタンの首都「アスタナ」という都市ですが、大学がある「アルマティ」は国内で最大の都市であり、元の首都であったところです。この二つの都市は距離が非常に離れているため、鉄道があまり発達していないカザフスタンでは移動に時間がかかります。

国土の26%ぐらいはステップ地帯で、大陸性の気候のため夏と冬の気温差が大きいです。1月の気温はだいたい4度から-25度と寒く、7月の気温は20度から30度程度です。

穀倉地帯では、綿花、小麦、ジャガイモなどが生産されていますし、牧畜業も盛んです。近年では石油、天然ガスなどの産出によって世界から注目される資源国家になっています。草原地帯で遊牧生活を送る人々も多くいて「キイズ・ウイ」と呼ばれる移動式の家を建てて家畜を飼っていました。しかし、ソ連時代の定住化政策によって、遊牧生活を送る人々は少なくなりました。旧ソ連の国々では今でもロシア語が話されています。カザフスタンもそうですが、同時にカザフ語も使われています。カザフ語は、元々カザフ民族の言語なので大部分の人々は話せます。



春の祭り「ナウリス」



カザフスタンは多民族国家で、約1,800万人の人口のうち、カザフ人67%、ロシア人20%、ウズベク人3%、ウクライナ人2%です。他にドイツ人、ウイグル系、タタール系の民族が住んでいます。その他はロシア帝国時代に移民してきたロシア系、ソ連時代に強制的に移住させられた朝鮮系の人々や、中央アジアの近隣国から移住してきた人々などで民族は構成されています。カザフ人は東洋系の顔立ちをしています。中国の史書によれば、カザフ人の先祖はヨーロッパ系だったそうです。しかし、近隣のモンゴル族やテュルク族と混血した結果、外見はすっかり今のような東洋系になりました。

カザフスタンの食べ物と言えば、やはり肉料理が一番です。それはカザフの伝統料理だけではなく、各地域の民族料理でもよく食べられています。

カザフスタンに来られたら、ぜひ「ベシュパルクマック」という料理を食べてみてください。カザフ伝統料理で、平らな四角い麺の上にたくさん牛肉や馬肉が載せてあって、とても美味しいと思います。また、カザフスタン人も優しいし、開放的なおもてなしを伝える家族が多いと思いますので、誰かの家を突然でも訪ねることになったら、いっぱい美味しく食べられると思います。

カザフスタンはまだ若い国なので、観光地とかはあまり知られていないと思います。もし、あなたにチャンスがあれば、美しいアルマティの山や興味深い南の歴史的なトルキスタンの町、他にも印象に残るチャルン渓谷とバイコヌール宇宙基地を訪ねてください。

出来るだけ、もっとカザフスタンのことを知ってほしいという気持ちでこの文章を書いているのですけれども、私の文章だけでは分かりにくいと思いますから、是非カザフスタンに来てカザフスタンの文化を楽しんでください。

ガボンと日本

キモ ブカンバ (ガボン)



皆さん初めまして、私はガボン共和国から来ましたキモ(Kimo Boukanba)と申します。2016年4月に日本に来ました、最初に大阪大学で日本語の基礎を学び、10月に和歌山大学に来て観光学部に所属し、現在、「民族行動学」というテーマで研究をしています。ガボンから日本に来るには直行便は無いので、まずパリに渡りパリから日本に来ますが、乗り換え時間を含めると約28時間という長い旅が必要です。

皆さんはガボン(Gabon)という国をご存知でしょうか。正式な国名はガボン共和国(Republique Gabonaise)と言います。漢字では「加蓬」と表記します。中央アフリカに位置し、北はカメルーン、南と東にコンゴ共和国と国境を接し、西は大西洋のギニア湾に面しており、首都はリーブルヴィルにあります。国名の由来はポルトガル語のGabao(水夫用外套の意味)から由来していると言われています。面積は26万km²で日本の面積の三分の二ほどで、日本の本州と四国を合わせた程の広さです。人口は約198万人で、札幌市(194万人)とほぼ同じ人口となっています。しかし国全体の人口密度から見ると、日本は1km²当たり336人ですがガボンでは1km²5人という差があります。見方を変えると、ガボンはいかに自然が沢山残っているかと言うことでもあります。国土の大部分は森林におおわれており、象、ゴリラ、バッファローなど多くの野生動物が生息しています。気候は熱帯モンスーン型で、雨季と乾季の差が大きく、雨季(9月～5月)は月間300ミリ、乾季(6月～8月)は3か月間で35ミリ程度と極端に雨量は少なくなります。

ガボンは1960年にフランスから独立したまだ新しい国で、共和制、大統領制を採用している立憲国家です。公用語はフランス語を使用していますが、多くの部族の言語も使われています。天然資源に恵まれており、木材、マンガン、ウランウム、鉄、石油などを多くの国々に輸出しています。

教育制度は託児所と幼稚園、6歳から小学校が6年間、中学校が7年間あります。日本より1年間長いですが、そのあとは技術学校、ビジネススクール、高等教育機関に進学する事ができます。

スポーツも盛んで、サッカーではオーバメヤンという選手がアフリカ大陸でナンバーワンになり、

テコンドウではロンドンオリンピックで銀メダルを取ることができました。その他に有名な人では、ガボンの医療に貢献したシュバイツァー博士が挙げられます。この方は神学者であり哲学者でもありますが、医療活動に取り組んで我が国の医療技術の向上に大いに貢献してくれた人です。現在もシュバイツァーホスピタルがあり、地域の医療を支えています。

ガボンは今後、未来に向かって大いに発展することができる国だと思っています。そのためには教育、自然保護、工業の発展など、色々な問題を解決する必要があると思いますが、みんなが平和に生活できる国づくりが最も重要なことだと考えます。皆さんもぜひ、機会があれば自然豊かなガボンに来てください。お待ちしております。

私も和歌山大学であと1年あまり観光学を学ぶのは当然のことですが、日本の文化に触れ、和歌山の自然、人とのふれあいをできるだけ多く体験しそれらを吸収して、帰国後ガボンの為に役立てることができるように頑張りたいと思っています。

昨年9月WINの研修旅行で那智大社に参拝し、熊野古道という古代から伝わる歴史ある路を歩きました。世界遺産にも登録されている熊野参詣という熊野信仰の精神が今もなお脈々と1200年以上受け継がれ、日本人の伝統文化を大切にすることが私の胸に伝わってきました。私が体験したことは本の一握りの事ですが、日本の素晴らしい自然、文化を大切に守り、育てる日本人の優しさ、勤勉さ、そして相手を思いやる気持ちを今後も大切に継承していただきたいと思っています。

世界でも類のない素晴らしい伝統文化を大切にすることが、おもてなしの心と共に、近年多くの国の人々が日本を訪れる一つの要因ではないかと思っています。私も来年無事帰国することが出来れば、この素晴らしい日本をガボンの人々はもちろんのこと、多くの国々の皆さんに日本を、和歌山を広めるつもりです。

南方熊楠との出会い

林 芷宇（中国）

日本に来る前に民俗学の分野で聞いたことがある学者の名前は、柳田国男のほかにはあまり知らなかった。印象に残らなかった名前がたくさんあった。その中に南方熊楠もあったかもしれないが、実は南方熊楠という有名な人物を知るきっかけは、非常に小さな偶然の機会であつた。熊楠と初めて出会った。それは、ある日のこと私が和歌山市民会館に行く途中の道端に熊楠の彫像を見つけた。そして、そこには熊楠のことが紹介されていた。では、何故そこに熊楠の彫像が置かれていたかという、その後、私が南方熊楠の記念館を見学した時にその理由が明らかになった。

今年の夏、私は和歌山県の白浜町にある南方熊楠記念館と田辺市にある南方熊楠顕彰館を訪ねた。そこで、実際に南方熊楠と接触することができた。

白浜町の美しい自然の景色と記念館の外観を見れば、特別な記念館だという感覚が自然に出てくる。館内には生活用品や壁の端から端まで達するような長い履歴書までもが展示されていた。その時、私は何時か熊楠のような履歴書を書くことができたら、自分の人生が充実していると言えるのではないかと考えた。

南方熊楠は主に粘菌を研究していたので、彼にとって自然環境を観察することが毎日の生活であつた。この記念館の設計思想は、屋上から360度の全方位を見ることが出来る建物だ。そのため熊楠が永く守ってきた「神島」が屋上から東の方向に見える。

ところで、生物学者であつた昭和天皇は、皇太子時代から粘菌にも関心を持たれ熊楠の存在を知っていた。昭和4年(1929年)天皇が白浜に行幸されたとき、熊楠は粘菌や海洋生物について天皇に御進講した。この思い出は永く天皇の心に刻まれたようで、それから33年後の昭和37年(1962年)昭和天皇が再び和歌山を行幸した際に、白浜の宿舎から在りし日の熊楠を回想し和歌を詠まれた。この御製を刻んだ碑は、「神島」を望む記念館の前に建立されている。「雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」という和歌だが、日本語の未熟な私が読んでも、忘れることなく頭の中にいつまでも残っている。

熊楠についての事績は様々あるが、その中で一番触れたいのは神社合祀だ。神社合祀とは、神社



の合弁政策ということである。つまり複数の神社の祭神を一つの神社に合祀させるか、もしくは神社の数を減らすというものだ。日本の神社は、神様を祭るとともに周辺の森、つまり自然環境を守るという働きをしている。神社を破壊すれば、言うまでもなく自然環境を壊す恐れもある。したがって熊楠はこれに反対して、神社合祀反対運動を行った。このため、熊楠が前述した「神島」をはじめ、貴重な自然を保護するため様々な反対運動や天然記念物の指定に向けて働きかけをした。記念館の中に熊楠が上半身を裸にして撮られた写真があり、それを反対運動の抗議の材料として使っていた。

南方熊楠は慶応3年(1867年)和歌山市に生まれ、19歳からアメリカ、イギリスなどへ14年間も海外遊学し、10数カ国語を自由に使いこなして国内外に多くの論文を発表した。南方熊楠顕彰館で熊楠の蔵書が保存されており、おかげで彼の書庫を見ることが出来た。その中に孫文がサインした熊楠の署名本があつて「海外逢知音」という中国の古詩(唐の詩人王勃が作った。)から出た文が書かれている。この意味は「海外で知己と出会う」ということだ。これを目にしたとき、南方熊楠が中国で民主革命の先駆者と呼ばれている孫文と個人的な付き合いがあつたことに私はびっくりした。私が見つけた熊楠の彫像と碑文は、彼の生誕地である和歌山市の橋丁に設置されている。

最後に、南方熊楠邸からの帰路、少し離れがたい気持ちが出てきた。あつという間に南方熊楠と接触し、勿論完全に彼のことが分かったとはいえないが、多くのことを学んだ。熊楠は様々な学術研究に貢献し、天才と言っても言い過ぎではない。しかし、その過程ではどのくらい努力したかは想像できないけれども、熊楠を手本として私も一生懸命努力して頑張ります。

紀州弁の現状と意義

呉 文傑 (中 国)

日本語を勉強するにつれ、私は日本にも方言があることを知った。そして、それまで気づかなかった日本のアニメやゲームの中の方言を意識するようになった。なかでも、関西弁が好きになり関西弁を私の卒論のテーマにしようと思った。だが和歌山に留学して、バイト先の中華料理店で店長やお客様の会話を聞き、紀州弁に絞って研究することにした。

「日本語日本文化研究」という授業で、それぞれの研究テーマをまとめることになったので紀州弁について調べ、更にアンケート調査を行った。

媒垣実「近畿方言の総合的研究」によれば、紀州弁は、近畿中央部よりも古い言語状態を保存している面が大きい。村内栄一「和歌山県の方言」(「講座方言学7」1982年所収)は、和歌山県内の方言を、紀北、紀中、紀南、さらに平地と奥地に分けて、それぞれに特徴があるとしているが、一般的な特徴としては、次のことがあげられる。

1. 尊敬語がない。その歴史的な理由について、司馬遼太郎は、紀州には古くから平等思想が根付いていたからだろうと肯定的に評価している。

2. 「ある」と「いる」の区別がない。

3. 「さじぜぞ」の発音を「だじづでど」と混同する。

4. その他、「ている」を「ちゃある」といったり、「ん」を省略したり、入れたり、言葉を短くしたり、重ねたりなど、いくつかの特徴がある。

では、以上のような紀州弁は、現在どのような状況にあるのだろうか。そのことを調べるため、長友先生や他の先生のご協力も得て、129人を対象に紀州弁(和歌山弁)についての意識調査を行い、18~25才、36~50才、51才以上という年齢層別、また和歌山出身者、非出身者別にデータをまとめて比較分析した。調査では、10の問いについて聞いたが、ここでは、詳しく紹介できないので、概要をまとめる。

(1) 紀州弁を知っているか、また使っているか。

当然、年齢が上の者や和歌山出身者は紀州弁をよく使えるし、自信をもって、実際にも使っているが、年齢が下の者や、特に非出身者はあまり使えない。また、使う場所は家や学校が多く、職場や買い物などでは、あまり使われなくなっている。



(2) 共通語と紀州弁の関係についてどう思うか。

年齢や出身によっていろいろな考え方があるが、一方だけにすべきだという意見は少なく、当然ながら、共通語と紀州弁の共存が大事だという意見が強い。紀州弁に対するイメージには、「可愛い、面白い」などのプラス評価と「恥ずかしい、汚い」などのマイナス評価が共にあるが、一番多いのは、特に何も感じないという意見であり、紀州弁を理由に差別されたりした経験についても、一度もないという声が圧倒的だった。

(3) 紀州弁の未来と保存について、どう思うか。

以上みてきたように、日常的に使っている人は、特に若者には少ないが、しかし、大学や職場で紀州弁を使うことについては、別にいいという意見が圧倒的であった。

しかし、現実には紀州弁を使う人は減ってきている。そのことについてどう思うかを聞いた。

紀州弁を無くした方がよいといった意見は少なく、紀州弁を使うことを認める意見は高い。しかし、実際に紀州弁が使われなくなっていることについては、「時代の流れであり、仕方がない」という意見が多い。

紀州弁が無くなりつつあることについて、自分には関係ない、やむをえない、という人が多いが、しかし一方では、このまま無くなることは残念なことであり、紀州弁などの方言は、文化財として残してゆくことが望ましいと思う人も少なくない。

以上、今回、紀州弁についてアンケート調査をしてみて、年齢が高い人に比べて若い人の関心度は低く、紀州弁は次第に使われなくなりつつあることが確認された。

中国では、方言は貴重な文化財と考えられ、少数民族の言語を文化財として記録保護してゆこうという姿勢が強いが、紀州弁については消えても別にいい、自分には関係ないと考えている人が少なくないようだ。

新留学生紹介

ゴック クイ (ベトナム)

初めまして、私は和歌山大学の三回生に編入してきた学生のクイです。

趣味はアニメを見る事です。意味が深く、著者が何を伝えたいかを自分に考えさせてくれるアニメが大好きです。音楽では **nightcore** というものが大好きです。もし日本語の歌を **nightcore** 化したものに変えて聞いたら、リラックスしながら聴解力も上げることができると思います。

高校を卒業した時に、避けたいくらい英語が苦手でした。ただ、今後の就職に外国語が必要だと考えたので、日本語を習うことにしました。今まで二年半ぐらい日本語を習っています。文法を分析する事は強みで、先生から仕事を紹介していただき、会社で日本語を教えたことがあります。一方、会話力はまだ苦手です。日本で留学するこの二年間に、それを改善しようと思っています。できたら、いい仕事に就き、自分に気を配ってくれる人を安心させることができる人間になれたらと思います。

和歌山市は自然が豊富にあり、静かな町だから自分に合っている所です。初めてなので、分からない事、知らない場所がたくさんあります。分からないからこそ、面白くなると思います。

日本で共に色々な事を体験して、生活を楽しみましょう。

ヌル イズヤン アルワニ (マレーシア)

私は、外国へ来るのは初めてなのに不安な気持ちはあまりありません。なぜなら、新しい環境にすぐ慣れるのは私の強みだからです。親が私を自立できる人間にするため、13歳の時から遠い寄宿学校で勉強させました。もし私が嫌になって反抗すると、もっと遠い学校に転校させました。3つの寄宿学校へ転校させました。その時は本当に辛くて毎晩泣いていましたが、時間が経つと少しずつ自立できるようになりました。

ところが、私が学んだ学校はマレーシアの中のベスト3に入る学校だから、試験の時のいい点を取らないと学校から追い出される可能性が非常に高いのです。そのおかげで、長い間自分のことだけを考えて頑張ったから、他人の気持ちが理解できなくなりました。そして相手が困った時、どのように手を伸ばして相手を助ければいいのか分かりません。その解決方法の一つとして、和歌山大学の観光学部に入ることにしました。他人との関係を深めながら、おもてなしの心を持つということを日本で学びたいです。

ロシー チャンドラ (インドネシア)

初めまして、私はビナヌサンタラ大学の三回生のロシー チャンドラと言います。友達が私の名前を「オチ」と言うニックネームを付けてくれました。私はインドネシアのジャカルタの出身です。趣味は音楽を聴くことで、最近は日本のドラマもよく見ています。音楽が大好きだから、音楽を聴かずにはいられないと思います。勉強している時



や嬉しい時、毎日何回も聴いています。日本に来たのは初めてなので、嬉しくてなりません。私にとってはまるで夢のようです。初めて桜を見て、春の季節を感じて、すごく嬉しいです。

私は寒い所に住むのがまだ慣れていませんので、日本に到着した時は少しびっくりしました。でも、今日からだんだん暖かくなりそうなので、安心しました。和歌山は静かで、便利で、住みやすいと思います。和歌山の皆さんも親切にしてくれて、本当にありがとうございます。これから毎日日本でどんな日々を過ごすことになるのかとずっと楽しみにしています。

プトリ アユ (インドネシア)

皆さんこんにちは。この留学に際して一言ご挨拶申し上げます。私はプトリと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

インドネシアから参りました。ジャカルタに住んでいました。ビヌス大学で日本文学を学び現在は和歌山大学の留学生です。この度、初めて日本に来ました。とても緊張しているが、嬉しいです。

和歌山市はとてもきれいだと思います。道は秩序が保たれ、空気も美味しいです。和歌山大学国際交流会館の友達は何人かいます。特に隣の部屋の人です。その人はフランスからの留学生です。Yちゃんと呼んでいます。私は皆と一緒に桜を見ました。その経験は思い出になります。そして、WIN コンコードの皆様のおかげで、私は自転車と炊飯器を借りることができました。誠にありがとうございます。

来週から学校が始まります。日本語と日本文化に対する理解を深めたいと思います。一所懸命がんばります。この留学の経験を決して忘れません。

マリアム サブリナ (マレーシア)

私はサブリナです。本当の名前はマリアム サブリナですが、言いやすいから、みんなは私を呼ぶとき、サブリナという名前を使います。

マレーシアから来ました。出身はクアラルンプールです。私の兄弟は4人で、2人の兄と1人の弟がいます。

私は音楽と映画が大好きです。なぜなら、音楽を聞くと安心できます。映画を見たら、たくさんの新しいアイデアが出てきます。暇な時間があつたら、例えば、寝る時間の前とか、何もしない時とかは本を読みます。私は全部のジャンルを楽しめますが、アドベンチャーとホラーものが一番興



味あります。

日本のことを深く知りたいから、私はこれから和歌山大学の観光学部に入って、勉強を頑張るつもりです。私は小さい頃から日本のことをよく聞いて、日本はきれいな所だなどよく思っていたので、実際に日本を経験したいという気持ちは年々強くなりました。だから、私は日本に留学する事にしました。特に、観光学部を選びました。家族も私の夢をサポートしてくれますから、もっと日本の観光を学びたいです。それだけではなく日本にいる間、色々日本だけでできる経験をするつもりです。出来たら、マレーシアへ帰ってから他の人にも日本への旅行をすすめたいです。

張 馨月 (中国)

私は日本学科の学生として、これまで2年半日本語を勉強してきました。でも日本に来たのは初めてです。自分の目で日本を見たいと思い、留学することに決めました。

日本へ行く前に、生活とか勉強とかたくさん心配しました。いろいろ考えた末、得難い経験なので、やってみようかと決心をしました。日本に到着した時、すぐによくできる自信が付きました。空港のスタッフや旅客など皆さんは親切です。彼らの話が分からないとき、彼らは簡単な日本語で根気よく説明してくれます。だから私は日本語を話す勇気が湧いてきます。

大学の寮に住むことは、一人暮らしの始まりを意味します。ラッキーなのは、先輩たちがたくさん助けてくれました。先生たちもいろんなアドバイスを教えてくれました。留学生活は簡単ではないけれど、自分は勇気を持って精一杯頑張ります。多くの意味のある一年を過ごすことができると信じています。

曹 方野 (中 国)

初めまして。私は中国から来た山東師範大学日本語学部二年生の曹方野と申します。クラスメートの陳さんと張さんと一緒に和歌山へやってきました。

和歌山でいろいろ親切な日本人に会って、美しい桜を見て、おいしい食べ物を食べて幸せな気持ちを感じます。ここでは毎日楽しい生活を送っています。一番印象的なのは、和歌山城の花見です。美しい風景の中で、みんなと一緒に笑いながら話をして、人間と人間の純粋な感情を感じました。

私は日本語を勉強するうちに、日本の物事に興味があって、日本らしい日本語を勉強したいと思っているところに、留学できるいいチャンスがあったので、和歌山大学に留学することにしました。この一年間は、真面目に勉強することが一番重要なことです。さらに、日本人の友達をたくさん作って、日本の教育方法を体得し、違う文化と教育環境を経験することで自分の視野も広げたいです。日本では大きな収穫があることを望んでいます。

フー ロイ (ベトナム)

はじめまして、タイ フー ロイ(Thai Huu Loi)と申します。ベトナムのホーチミン市から参りました。ベトナム人の名前の読み方はちょっと難しいのでロイと呼んでください。フー ロイという言葉はベトナム語で「有利」という意味です。日本へ来たことがありませんから、日本に着いた時はいろいろ知らないことがありました。思っていたとおり和歌山は山がたくさんありますが、びっくりしたことは和歌山の四月の気温が寒いです。ベトナム人にとって空の上に百台のエアコンが動いているようです。道路の両側に並ぶ桜の木々が美しいです。ここで生活するのは大変でも面白いと思いました。

私には趣味がたくさんあります。ゲームとか漫画とかアニメが好きです。毎日、日本語を勉強するためにアニメを見て漫画を読みます。しかし、漫画とアニメだけから日本の文化を知りたくありません。和歌山大学の交換留学生になるのは、日本の文化と生活を勉強するためです。私は日本語で外国の交換留学生とたくさん話したいから、一年間一生懸命頑張ります。色々なことがわからないので、よろしく願い致します。

ライザ モトル (フィリピン)

私はクリソストモ ライザ モトルです。ライザと呼んでください。フィリピンのブラカン地方、



サンジョゼデルモンテ市(San Jose del Monte City, Bulacan)から、大使館推薦教員研修留学生として日本に来ました。サンジョゼデルモンテ市はマニラの北東 27 キロに位置していて、人口は 58 万人です。気候は日本のような春夏秋冬は無く乾季と雨季に分かれているだけです。

趣味は音楽とミュージカルプレイとピアノ、そして漫画を読むことと映画とアニメを見ることです。私は時間とお金があれば、休暇中に旅行するのも大好きです。私はケソン市のフィリピン科学高等学校 (Philippine Science High School-Main Campus, Quezon City) という中高一貫校で、中高生に物理、地球科学、そして天文について教えています。中高一貫校ですが、高等学校に入るためには入学試験を受けなければなりません。そのため、この学校の中高合わせた生徒数は 1440 人ほどに過ぎません。

私が住んでいるブラカン市は和歌山市と同じくらい美しくて静かなところです。日本に来てびっくりした事は、たくさん電車があって速くて時間通りに来ることです。それから、たくさんの自動販売機とコンビニがあって、とても便利で生活しやすいです。でも果物や野菜の高いことに驚きました。私の家ではいくつかの野菜や果物は無料で手に入れることが出来ますし、隣の家の果物まで無料で手に入れることができるからです。

最近フィリピンでは教育制度が変更されました。それで、私は日本の教育制度と、特に天文学について学びたいです。私は天文教育の学校を探していて和歌山大学を見つけました。富田先生は、天文学教育に関する多くの研究と活動を行っています。私は和歌山大学での教育研究の後にはケソン市の学校に戻り、私が学んだことを適用し、和歌山大学と富田教授との協力関係を構築したいと考えています。まだまだ日本語が上手くありませんがよろしく願いします。

ロバート（オーストラリア）

皆さん、初めまして。私の名前はロバートです。オーストラリアのパースからきました。日本語を二年間勉強しています。日本語は日本に行かずに、なかなか流暢にならないと自分では思っています。

私は外交官になりたいから、外国語と外国文化を大切にしたいと思います。私は日本文化と日本人が好きです。毎日外国語に接するのが、文化を理解するための秘訣だと思います。もし私が日本文化を分かれば、外交官として私は日本とオーストラリアの貿易を促進し友情を深めることが出来ます。

現在、私は日本文化を楽しんでいます。和歌山地方に多いきれいな山とお寺へよく行きます。私は和歌山弁を習っているし、日本の和歌も詠むし、たくさんの美味しい食べ物を食べます。これまでの和歌山は大好きです。どうぞよろしく願いいたします。

私の思い出

アンドレア リー（シンガポール）

私が日本に来てから1年半で、楽しい時が本当に早く過ぎました。私にはここで作った多くの忘れられない思い出があります。2016年9月に日本行きの飛行機に乗る直前まで働いていたことを思い出しました。私は日本に向かう飛行機の中で、今後の心配もありましたが、同時に期待と興奮もしていました。日本で勉強して暮らしていくことが私の夢でした。私は大学にいたときに日本語の授業を受けて、仕事を始めた最初の頃は日本語の勉強を続けていました。徐々に仕事が忙しくなるにつれ、日本語の勉強をすることができなくなりました。留学していたこの1年半の間、交流している日本人と日本語で話すことを大切にしていました。私は日本語を学ぶだけでなく、日本のおもてなし、伝統、文化についても学びました。日本での時間を振り返りながら、私は日本人、特にWIN コンコードのお父さんとお母さんたちの暖かさや優しさにとっても感動しています。

WIN コンコードの事務所でのウェルカムパーティーや和歌山城での桜のお花見とピクニック、他の留学生とWIN コンコードのメンバーとの忘



年会に参加したことも思い出します。また、奥野さんと柿の摘み取り、潰瀧理事長の農場でははっさく狩り、中谷先生とビッグホエールで相撲の試合を見て、高橋さんとの和歌山県各地への日帰り旅行、田村お母さんの家でピクニックをしました。また、昨年の秋はWIN コンコードのメンバーと串本と那智の滝の見学旅行に参加しました。松島お母さんと萬賀さんの家で食事をしたり、関根さんと一緒に焼肉を食べたことなども思い出します。藤原さんと出口さんには、いつも私の日本語の文章をチェックしていただき、たくさん勉強になりました。また、松下先生との日本の歴史と文化のレッスンも楽しみでした。奥野お父さんとお母さんは、実の父と母のように私を大変世話してくださいました。

また、最終的な研究報告書を書いている忙しい時、特に過去2ヶ月間はいつもおいしい食べ物を食べさせてくれました。もっとたくさんの活動がありますが、ここではいくつかのリストしかありません。WIN コンコードのメンバーに対して持っている感謝を言葉では十分に表現することはできません。多くの活動とWIN コンコードのメンバーとの交流を通じて、私は「無私」であるという意味を理解することが出来ました。

WIN コンコードのメンバーは、留学生の世話するために最善の努力をしてくれました。私にとっては、日本での1年半の素晴らしい留学でした。日本は私の第二の故郷になり、私は心の中で素晴らしい時を思い出して大切にします。私はいつも和歌山の留学生は、WIN コンコードのような組織が存在するので、とても幸運で幸せだと思っています。

WINのお父さんとお母さんたちに、大変お世話になり本当にありがとうございました。

研修旅行の一日

呉 星宇（中国）

朝7時に起きて、朝日に向かって私たち留学生の研修旅行の幕が開きました。私にとっては驚きと喜びの一日が始まりました。それは「マイクさん」と再会できたことです。彼とは以前同じボランティア活動に参加した時に知り合いになっていたのので、今回も彼に会えたことは驚きでもあり、私はそのことがとても嬉しかったです。

午前7時過ぎ、青空が今日のよい天気をあらわしていて、真正面から夏の太陽が輝いていました。先生にももらったお菓子和飲み物をいただきながら、みんなで楽しくお喋りをして、私たちは2時間ほど車中で過ごしました。途中で休憩した串本の橋杭岩は、大小40個余りの岩柱が南西一列におよそ850メートルもの長きにわたって列を成してそそり立っています。橋杭岩を通して見る朝日は、とても美しいと評判で「日本の朝日百選」の認定も受けています。

休憩してから一行は、バスからきれいな海の景色を楽しみながら次の目的地である那智の滝に向けて出発しました。

那智の滝に行く前に、私たちは熊野古道の雰囲気を味わうため「大門坂」の入り口に着き、その坂道の少し手前から歩き始めました。道に沿って営業している店舗の人々は、皆やさしくていい方ばかりで、自分の店の商品の歴史をお客さんに熱心に紹介してくれました。その中でも「すずり」が一番有名だそうです。那智山から産出される那智黒石は、むかし熊野詣の証拠として旅人が持ち帰ったといわれています。幸運なことに、私たちはそれを手に取って見ることができました。

私たちは半時間ほど歩いた後に、やっと大門坂に着きました。しかし、ここでは休憩を挟まず、そのまま那智大社に向かう参道石段を登りました。そこからは、もうひたすら石段なので大門坂よりきつく感じました。

那智大社では大きな「おみくじ」を引いてみましたが、大きすぎて手に持って振るのが大変でした。おみくじの結果は「吉」でした。ここの下り坂はゴツゴツした石が多く、大門坂と比べると少し歩くのが辛かったです。私は、那智の滝を遠方から見た時に心の中では感嘆して大声で叫びました。間近まで近づいて行き、実際に滝の下を見ると予想通り大きかったです。



滝つぼには、私が思っていたほど近づけませんでしたが、やはり少しでも近づくと迫力がありました。皆はたいへん感動し、ここで記念の集合写真を撮りました。

那智の滝の上に行くのは本当に貴重な経験です。熊野の文化や歴史、自然などを余すことなく語ってもらいました。知的好奇心を満たされることは間違いないです。そして熊野の自然だけではなく、ここの文化と環境を守っていることに本当に感動しました。経済的に見ると、確かに熊野をできるだけ開発するほうが利益になりますが、当地の人々は、この自然の景観を守るために利益を捨てて環境保護者として生活しています。

熊野からの帰路は、白浜の円月島に立ち寄りしました。円月島は、白浜の温泉街を海岸線に沿って少し走ると見えてきます。島の真ん中にぽっかり穴の開いた空洞があり、不思議な形をしています。天気は曇っていたため、夕日が島の背後に沈む姿を見られなかったことが少し残念に思いました。

この研修は、とても充実した日帰り旅行でした。いろいろな文化と自然の体験ができ、先生たちと一緒に話したり写真を撮ったりして、楽しく熊野を学習することが出来ました。

帰る時は、夜の景色が周囲を覆いました。車内ではカラオケを歌ったりして、一日の疲労は全部なくなりました。外はもう真っ暗になっていたのので、車内から見える景色は山の中腹にいくつかの明かりが見えるだけでした。その有様は、私たちがいる明るい車内の暖かさと対照的であったことが強く私の印象に残っています。皆の笑顔と歌声は全部私の頭に刻まれて、数年経つと今日のことをはっきりと覚えていないかもしれないけれども、心の中の感覚はきっといつまでも私の胸に記憶されていることでしょう。

和歌山のことを話し始めると、今回の研修旅行のことは絶対に忘れられない一日です。

大学を支える地域の力

帯野久美子氏（和歌山大学元副学長）

和歌山大学の副学長に就任した後、何をしたらよいのかもわからないまま悶々としていた私は、そこに 163 名の留学生がいることを知り、驚き、そして安堵した。しかしその時不思議に思ったのは、これほどの留学生をどのようにして小さな大学が受け入れているのだろうかということだった。留学生寮もあるが、部屋数はたったの 24 室だけ。大学が郊外に移転したため、市街地にある寮から大学までは片道 30 分もかかる。学生によって在籍資格や入学時期もバラバラで日本語の能力も個人差が大きいのに、長い間、日本語教員は 1 人しかいなかった。大学だけがこれだけ多くの留学生の受け皿になっているとは到底考えられなかった。

やがて私は、WIN コンコードという市民団体の存在を知った。2009 年に NPO 法人の資格を取得した WIN コンコードには 50 人の市民が参加しており、県下の大学に在籍する留学生が安心して勉学に励み、有意義な留学生活が送れる環境を提供することを目的に、和歌山市で 30 年間活動を続けている。住宅の手配や引っ越しの手伝い、さらには就職支援まで、留学生の生活を全面的にサポートしており、留学生にとって不安な健康面のトラブルはもちろん、事件に巻き込まれた際にも、サポートに力を尽くしてくれる。

WIN コンコードは、大学と協定を結んでいるわけではないし、経費の補助を受けているわけでもない。それでも 30 年間、メンバーは留学生に寄り添い、留学生を育ててきた。その積み重ねを示すように、事務所は、世界中の留学生から送られてくる便りや写真であふれている。

中には世話をしても不義理をする留学生もいるが、「それでもめげず、挫けず。もう放っておこうと思うのだけれど、でも結局世話をしているよね」と、25 年間に 50 人の留学生をホストとして受け入れてきたメンバーの 1 人は笑って言う。

年に一回開催される留学生日本語スピーチ大会の中でも「日本のお父さん、お母さん」という言葉が繰り返し使われる。私が 2015 年にベトナムで立ち上げた留学生の OB 会でも話題になるのはいつも「和歌山のお父さん、お母さん」のことだ。来日の際は、大学には寄らなくとも、お世話になった彼らの元には必ず顔を出しているという。

都会育ちでいつも自分のことに精一杯に生きて

きた私には、なぜこれほど献身的に支えられるのか分からない。それは和歌山という密度の濃いコミュニティのせいなのかもしれない。和歌山大学のグローバル化は、この暖かい地域の力がなくては成り立たないのだ。

< 出典 >

帯野久美子「地域がグローバルに生きるには」
㈱学芸出版社 2017 年

2017 年度 活動経過

4 月 2 日	新入生歓迎お花見
5 月 2 6 日	WIN コンコードニュースター 27 号発行
5 月 2 8 日	第 9 回 NPO 法人 WIN コンコード 総会・交流会
7 月 1 日	七夕祭り
9 月 6 日	南方熊楠記念館・南方熊楠顕彰館 見学
9 月 2 1 日	「和歌山の世界遺産を学ぶ」研修 旅行—熊野地方
9 月 2 6 日	県立博物館特別展「明恵と西行」
1 0 月 1 日	第 26 回留学生故郷を語る集い
1 0 月 8 日	秋季例祭 秋祭り参加 宮原神社
1 0 月 2 8 日	日本舞踊体験 参加
1 1 月 1 9 日	大学祭模擬店 留学生の店へ協力
1 1 月 2 6 日	柿狩りとハイキング
1 2 月 6 日	南葵音楽文庫寄託記念・ 読売日本交響楽団和歌山特別公演
1 2 月 9 日	お餅つき
1 2 月 2 3 日	八朔狩り・鍋パーティー
1 月 3 日	世界遺産 丹生都比売神社 日前宮へ初詣
2 月 1 9 日	会社見学 ㈱島精機製作所

年 間

- ・就職活動に向けた個人勉強会の実施
- ・日本語及び日本の歴史・文化等の学びを支援
- ・生活関連の情報提供や支援
- ・生活用品の貸与
- ・留生活活動（卒業アルバムの作成大学祭の模擬店）の協力
- ・ホストファミリーとしての支援
- ・来日した卒業生との交流や帰国した卒業生を訪問し、メール等で連絡を取り合うなど様々な形で交流を続けている





WINコンコード設立趣意書

現在社会は、政治・経済・文化のすべて分野で地球を一つの単位として捉え、はじめて、その機能を十分に発揮しうる状況に至っていると思われ
ます。そして、このかけがえのない地球の責任を担っているのは、たった一つの「種」に留まる「ヒト」即ち人間であり、その一人一人の人間が確立された個として、地球の貴重な構成要素としての役割を果たすことが求められています。民族の違いは、多様な文化の豊かさを示すにすぎず、国境は行政を効率的に行うための境界にしかすぎないのです。

WINは、人間の知恵を結集し、愛すべき郷土和歌山が、人間味溢れるネットワーク、Human Active Networkで結ばれた、活性化された地域となるために活動するものです。そして世界各国から勉学の間を求めて留学して来る人々に、より良い環境を整えることは、ひとつの単位となった地球上にHuman Active Networkを構築するうえにおいても重要なことであり、これにより、地球のひとつの地域である和歌山が、世界とダイレクトに結びつき、和歌山の優れた文化が世界に紹介され地球の多様で豊かな文化環境の醸成に寄与できるのではないかと考え、我々は、WINコンコードを設立するものです。

NPO法人 WIN コンコード事務局

〒640-8215 和歌山市橋丁23番地N4ビル3F

TEL/FAX 073-426-0798

E-mail ryugakusei@win-concord.jp

<http://www.win-concord.jp>